

活動主題 「三段攻撃ができるバレーボールチームをつくる」（ネット型）**活動の価値**

ネット型スポーツは、コート上のネットを挟み、空いた場所をめぐる攻防から得点を競い合う楽しさを味わうことができるスポーツである。その中でもバレーボールは、仲間と協力してボールをつなぎラリーを続けたり、攻撃方法を工夫して得点したりする楽しさを味わうことができる。特に、相手からの返球をレシーブ、トス、スパイクとつなぎ三段攻撃を成功させることによって得点のチャンスを増やし、試合を有利に進めることができる。技術的構造としては、アンダーハンドパスやオーバーハンドパス、サービスやスパイクといったバレーボール特有の個人技能によって支えられる。また、セッターやリベロ、アタッカーといった個々に適したポジショニングによって、役割に応じてどのように連携するのかと探究するところにバレーボールを学習する楽しさがある。さらに、人数やコートの広さ、ボールの種類、プレイの制限によって、ゲームの難易度を変更することができ、子どもの実態に応じて工夫できるスポーツでもある。

本活動「三段攻撃ができるバレーボールチームをつくる」は、自己の課題に応じた練習方法を選択したり、チームに適したフォーメーションを考えたりしながら、自己の役割や連携プレイを追究する活動である。本活動を通して、バレーボール特有のボール操作の技能を高めることはもちろん、仲間と連携して定位置に戻ったり、空いている空間を埋めたりといったネット型スポーツの汎用的な動きを高めることができる。また、自己やチームの課題に応じた練習方法を選択するといった思考力・判断力を高めることができる。さらに、責任をもって役割を果たしたり、仲間と協力したりすることの意義を理解することができる。これらは、ネット型スポーツの楽しさを実感し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力をはぐくむことができる大変意義深い活動である。

子どもの実態

本学級の子ども〇名（男子〇名、女子〇名）にアンケート調査を実施した。子どもは、1年時にもバレーボールの活動を経験している。まず、1年時のバレーボールの学習でどのような技能が高まったか（複数回答可）という質問をしたところ、アンダーハンドパス〇名、オーバーハンドパス〇名、レシーブ〇名、サービス〇名、スパイク〇名という結果であった。次に、三段攻撃ができるようになったかという質問に対して、できた〇名、少しできた〇名、あまりできなかった〇名、全くできなかった〇名という結果であった。最後に、2年生のバレーボールの授業では、どのような技術を高めたかという質問に対して「パスやスパイクなどの技能を高めた」「仲間との連携を高めた」「男女混合で協力して達成感を味わいたい」「連携をしっかりして作戦を考えて勝つ」という回答があった。

以上の実態から、1年時の学習によりバレーボールの基本的な技能であるパスの技能は一定程度高まっているが、仲間と連携して三段攻撃するまでに技能が高まっていないことがわかった。一方で、作戦を考えたり、連携を高めたりすることを課題に感じている子どもが多いことから、仲間との連携するためのフォーメーションについて学び、役割に応じた動きを高めていく必要がある。

活動の援助観

そこで本活動は、単元の見通しをもち、役割に応じたレシーブ、トス、スパイクの技能やチームの連携を高めて三段攻撃で得点する楽しさを味わい、学びを生かすことができるようにすることをねらいとする。そのために、次のような援助を行う。

- ・バレーボールの特性を理解することができるよう、モデルの動画を視聴後に試しのゲームを行い、特性やルールについてまとめる時間を設定する。
- ・役割に応じたレシーブ、トス、スパイクの技能を高めることができるように、課題に応じて練習方法を選ぶ場を設定する。その際、練習方法をまとめた動画集の中から選択できるようにする。
- ・チームの連携を高めることができるように、フォーメーションを考える時間やワンタッチゲームを設定する。三段攻撃をできるようにするために、アタックキャッチバレーを設定する。
- ・自己の動きや、チーム内の連携の様子を確認することができるように、タブレットと動作遅延アプリを活用する。
- ・学びを生かすことができるように、リーグ戦や1年生に技術を伝える活動を設定する。

○ 子どもの学習目標

三段攻撃ができるチームをつくるために、得意なポジションを見つけて技能を高めることができる。

○ 教師の援助目標

単元の見通しをもち、役割に応じたレシーブ、トス、スパイクの技能やチームの連携を高めて三段攻撃で得点する楽しさを味わい、学びを生かすことができるようにする。

活動計画 (14 時間)

次	時	学習活動・内容	子どもの問いと思考	援助のねらい・内容・方法
一	1 ①	1 オリエンテーションをする。 (1) 試しのゲームをする。 (2) 特性について考える。 ・機能的特性・構造的特性 ・効果的的特性・ルール (3) 学習課題を設定する。 学習課題 自分の得意なポジションを見つけて、三段攻撃ができるチームをつくる。	1年生の時にパスはできるようになったけど、他にどんな技術が必要かな。 自分の役割を果たして三段攻撃ができるようになりたいな。	バレーボールの特性を再確認し、単元を貫く課題を設定して見通しをもつことができるようにする。 ・1年時に学習したバレーボールの特性を再確認することができるように、モデルの動画を視聴後試しのゲームを行い特性やルールをまとめる時間を設定する。
	1 ⑤	2 パス、ポジション練習をする。 (1) パスのポイントを再確認する。 ・アンダーハンドパス ・オーバーハンドパス (2) パス練習をする。 ・対人パス・直上パス ・円陣パス・移動パス (3) ポジション練習をする。 ・サーブレシーブ ・トス・スパイク ・定位置に戻る動き	チームの戦力から自分の力を発揮できるポジションはどこかな。 自分のポジションが見つかったぞ。	役割に応じたレシーブ、トス、スパイクの技能やチームの連携を高めて三段攻撃ができるようにする。 ・役割に応じたレシーブ、トスやスパイクの技能を高めることができるように、課題に応じて練習方法を選び、ポジション練習の時間を設定する。
本時 3 / 4	2 ④	3 コンビネーション練習をする。 (1) フォーメーションを知る。 ・フォーメーション (2) フォーメーションを考え、ワンタッチバレーをする。 ・ポジショニング (3) 三段攻撃局面練習をする。 ・レシーブ・トス・スパイク (4) アタックキャッチバレーをする。 ・セッター・レシーバー ・アタッカー	三段攻撃を成功させるためにはどんなフォーメーションが有効かな。 私たちにはWフォーメーションが1番有効みたいだ。	・チームの連携を高めることができるように、フォーメーションを考える時間やワンタッチゲームを設定する。 ・三段攻撃をできるようにするために、アタックキャッチバレーを設定する。 ・自己の動きや、チーム内の連携の様子を確認することができるように、タブレットと動作遅延アプリを活用する。
	1 ④	4 リーグ戦をする。 (1) 進め方を決定する。 ・試合の進め方 (2) 試合や審判をする。 ・審判の方法 ・フォーメーションの有効性 5 単元のまとめをする。 (1) 1年生に技術を伝える。 ・パスの基本 ・バレーボールの特性	チームはどれだけ強くなったかな。 三段攻撃ができるバレーボールチームがつくれたぞ。他のスポーツでも自分の役割を果たしたいな。	学びを生かすことができるようにする。 ・これまでの学びを生かすことができるように、リーグ戦や1年生に技術を伝える活動を設定する。



本時 公開授業2 体育館 第二次の2時(3/4)

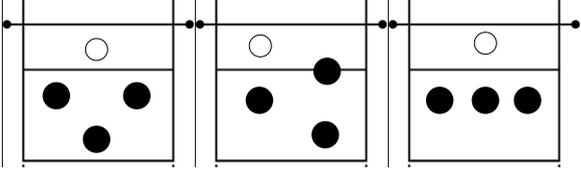
本時の援助観

一次において、試しのゲームやモデルの動画を通して、バレーボールの特性やルールを再確認している。また、役割を果たすために自己の課題にあった練習方法を選択しながら、アンダーハンドパスやオーバーハンドパスを用いたレシーブやトス、スパイクといった個人技能を高めてきている。さらに、前時では、レシーブフォーメーションの型を知り、オリジナルのフォーメーションを考えたりワンタッチゲームを行ったりしている。そこで、本時は自己の役割を果たして仲間と協力してボールをつなぎ三段攻撃を成功することができるように、三段攻撃の局面練習とアタックキャッチバレーを設定する。なお、ラリーを重視するためにスパイクはジャンプを用いないこととする。

主眼

レシーブ、トス、スパイクとボールをつなぎ三段攻撃ができるようにする。

本時の過程

学習活動・内容	指導上の留意点	形態	配時
<p>1 本時のめあてを確認して目標を設定する。</p> <p>(1)ウォーミングアップを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直上パス ・対人パス <p>(2)前時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーメーション  <p>(3)めあてを設定する。</p> <p>チームで協力して三段攻撃を成功させよう。</p>	<p>本時の学習に見通しをもつことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスの技能を高めることができるように、毎時間のウォーミングアップに直上パスと対人パスを行う。 ・本時の学習に見通しを持つことができるように、前時の活動の様子と理想の動きとを比較する場を設定する。 	小集団 / 一斉	10
<p>2 三段攻撃の局面練習をチームでする。</p> <p>【三段攻撃局面練習の方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①まず、アタッカーはリベロにトス ②リベロはレシーブをしてセッターへ ③アタッカーは簡易スパイク <ul style="list-style-type: none"> ・レシーブ ・トス ・スパイク <p>3 アタックキャッチバレーをする。</p> <p>【アタックキャッチバレーの方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①サービスは相手からオーバーパス ②1打目のリベロはキャッチOK ③セッターはトスのみ ④アタッカーはスパイク <ul style="list-style-type: none"> ・フォーメーション ・ポジショニング ・トス ・スパイク ・レシーブ 	<p>レシーブ、トス、スパイクとボールをつなぎ、三段攻撃ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三段攻撃に必要な動きを強調して練習することができるように、局面練習をチームで行う場を設定する。 ・レシーブ、トス、スパイクといった簡単な三段攻撃ができるようにするために、アタックキャッチバレーを設定する。 ・自己の動きや、チーム内の連携の様子を確認することができるように、タブレットと動作遅延アプリを活用する。 	小集団 / 学級集団	30
<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私のポジションはセッターだったけど、三段攻撃を成功させるため、アタッカーが打ちやすい位置にトスを上げることができた。 ・アタッカーとして、相手の空いている空間を見つけて、打ち返すことができた。 	<p>チームの新たな課題や成果を発見することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームや個人の新たな課題や成果を発見することができるように、チームの活動VTRを見ながら意見を出し合う場を設定する。 	小集団 / 一斉	10

活動の評価

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> バレーボールの特性や技術の名称、関連して高まる体力について理解している。 アンダーハンドパスや、オーバーハンドパスを用いて味方が操作しやすい位置にボールをつないだりスパイクで返球したりできる。 相手側のコートに打ち返した後、定位置に戻ることができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 提供された練習方法から自己やチームの課題に応じて練習方法を選んでいる。 チームの特徴を踏まえたフォーメーションを見つけている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 役割に応じた責任を果たそうとしている。 チームの課題を解決するために話し合いに参加しようとしている。

※ 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

次	時	学習活動	評価規準(観点：方法)	指導の個別化(手だて)
一	1 ①	1 オリエンテーションをする。 (1) 試しのゲームをする。 (2) 特性について考える。 (3) 学習課題を設定する。 学習課題 自分の得意なポジションを見つけて、三段攻撃ができるチームをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> バレーボールの特性や技術の名称、関連して高まる体力について理解している。 (知：ワークシート)	具体的な知識を個別に教示する。
二	1 ⑤	2 パス、ポジション練習をする。 (1) パスのポイントを再確認する。 (2) パス練習をする。 (3) ポジション練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 提供された練習方法から自己やチームの課題に応じて練習方法を選んでいる。 (思：ワークシート)	課題にあった適切な練習方法を個別に助言する。
	2 ④	3 コンビネーション練習をする。 (1) フォーメーションを知る。 (2) フォーメーションを考え、ワンキャッチゲームをする。 (3) 三段攻撃局面練習をする。 (4) アタックキャッチバレーをする。	<ul style="list-style-type: none"> チームの課題を解決するために話し合いに参加しようとしている。 (態：観察)	チームの課題の見つけ方について、個別に問う。
三	1 ④	4 リーグ戦をする。 (1) 進め方を決定する。 (2) 試合や審判をする。	<ul style="list-style-type: none"> アンダーハンドパスや、オーバーハンドパスを用いて味方が操作しやすい位置にボールをつないだりスパイクで返球したりできる。 (知：動画)	タブレットを用いて様相を撮影し、具体的な動き方を個別に助言する。
		5 単元のまとめをする。 (1) 1年生に技術を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> 役割に応じた責任を果たそうとしている。 (態：観察)	具体的な技術のポイントや役割について個別に助言する。